

バレル研磨機など業容拡大 高い技術力で新規開発も

海外
発注可
企画力
自信有
コスト
相談
試作可
小ロット
量産
対応



微細加工を得意とする

業務内容 部品加工から自社製品の 設計・製造まで展開

大手ベアリングメーカーで機械設計のエンジニアをしていた前社長が、昭和42年に創業。自動機械の設計・製作や、原子力発電所で使用する燃料集合体の部品加工など徐々に業容を広げた。2000年代にIT化が進み光通信の需要が伸びたことを契機に、光通信関連部品の切削加工に着手。その切削過程で生じるバリ取りの精度を上げるため、自社でバレル研磨機の開発に乗り出した。さらにバレル研磨機の機構を応用した粉体ミキサーの開発要望に応じ、揺動式遠心粉体ミキサー「SANMIX」を開発。加工から研磨機やミキサーの製造・販売まで行っている。

強み 海外調達を進め 価格競争力をつける

生産の効率化を図るため、平成7年には知人の紹介で韓国企業へ部品加工を委託。同社の技術者が韓国へ直接技術指導に赴き、金属加工の技術力向上に取り組んだ。落合良隆社長は「視察した際に相手先の企業に仕事がこなせるか不安もあったが、もともと技術力があり今では大きな企業に成長した」と振り返る。韓国のほか、現在は中国やマレーシアからも部品などを調達しており、国内で重要部分を手がけながら着々と価格競争力をつけている。今では主要外注先として協力体制が整っており、「海外調達が武器のひとつとなっている」と、関係も良好だ。

開発力 気付きが開発のヒントに

以前は他社製のバレル研磨機を使用していたが、打痕キズや曲がりに悩まされたことをきっかけに自社開発を始めた。使用して

いたバレル研磨機では、バレル（容器）槽設置角度が水平だったため研磨材とワーク（対象物）とが分離、打痕や研磨力低下につながるなどの原因を突き止めた。そこでバレル槽の設置角度を工夫することで、ワークを均一に研磨することに成功。研磨機の製造・販売により、「研磨時間が短縮され打痕軽減などワークが均一に研磨できる」と評判になった。さらに、その技術を活用したいと顧客から要望があり、粉体ミキサーへの展開にも着手。機器内に装着する容器を粉体用に改良するなど工夫を施している。

今後の展望 粉砕加工技術に注視 測定機導入で実現目指す

機械装置の設計開発から始まった同社は、バレル研磨機や粉体ミキサーの製造など着実に事業領域を拡大。バレル研磨から派生した粉体分野では、乾式分散混合技術で特許を取得した。独自の自公転方式による公転運動と揺動運動の組み合わせにより、短時間かつ低温域で粉体の分散と混合が可能だ。現在、注目しているのが粉砕加工だ。原材料の微細化が注目されているため「次は粉砕加工を手がけたい」と落合社長は意欲を燃やす。中小企業向けの「ものづくり補助金」を利用して粒度分布測定機を導入しており、粉砕加工技術の確立へ動きだしている。



顕微鏡で目視検査



主力製品の
バレル研磨機

当社の歴史



大阪府羽曳野市で10坪ほどの長屋を工場にして、昭和42年に産業機械の設計製作会社を創業。業容を拡大しながら、おかげさまで50周年を迎えました。原子力発電所の燃料集合体関連部品や光通信などの微細部品加工のほか、バレル研磨装置などの機械装置の開発も手がけています。

代表取締役 落合 良隆さん

<http://www.sankei-pr.co.jp/>

主な事業内容

金属切削加工、非破壊検査
対比試験片、研磨機や粉体
ミキサーの製造・販売など

主な取引先(納入先)

半導体パッケージ、原子燃料、
非破壊検査の各メーカー

住所

〒547-0023
大阪市平野区
瓜破南2-3-4

TEL 06-4302-1871
FAX 06-4302-1885
創業 昭和42年6月
設立 昭和55年11月
資本金 1,000万円
従業員 32名